

京都府図書館等連絡協議会実務研修会（南部会場）概要

テーマ： ヤングアダルト世代の利用率向上のための取組

演題： 「YA ヤングアダルトを時流に乗せて」

講師： 絵本案内人 高木 すえ子 氏

会場： 精華町立図書館 1階 集会室

日時： 令和7年2月6日（木） 午後2時～4時

参加者数： 18名

概要： 中高生に図書館を利用してもらうためには、どのような工夫をすればいいのか。ヤングアダルトコーナーを設けている図書館もそうでない図書館も、日々頭を悩ませていると思います。

そこで、長きに渡り、児童書専門店や数々の大手書店で児童書に携わり、数々のブックフェアを手掛けてこられた絵本案内人である高木すえ子氏に、ヤングアダルト世代の利用率向上のための取組について、お話をさせていただきました。

会場には、これまで様々なテーマで開催されたブックフェアに登場した本の中から、講師が特に紹介したい本、40冊ほどが並べられました。研修は、講師が実際にそれらの本を見せながら、内容や描かれた背景、また、フェアを開催するにあたっての工夫などを、エピソードを交え、1冊ずつ詳しく説明する形で進められました。

講師が児童書に出会ったのは、ヤングアダルト世代である17、18歳頃。その後、短大で今江祥智氏の児童文学関係の講義を受けたのがきっかけとなり、若い世代に本が持つ力を訴えていくことがライフワークとなったそうです。

また、ヤングアダルトを意識したのは、ジュンク堂書店京都店が開店した平成元年頃。夏休みに親御さんが課題図書しか買わない状況を見て、感想文を書くことにとらわれず、楽しい物語や工作の本などを一緒に並べてみたらどうかと考えたのが始まりでした。その後、ヤングアダルトという言葉がなかなか浸透しない中で新たな動きとして、2015年に「BOOK MARK」というヤングアダルト向けのフリーペーパーが創刊されました。また、ヤングアダルト向けの図書目録が作成されたり、雑誌の特集で取り上げられたりするようにもなりました。

2021年に開催された「大人も読みたい絵本と本（物語から「暮らし」を考える）」というブックフェアで、お客さんの8割近くが若い世代だったこと、絵本の売れ行きが非常に良かったことがその後のヤングアダルト向けのフェアに力を注いでいくきっかけとなったそうです。絵本には、楽しいものだけでなく、「ちょっと一緒に考えてみよう」ということがモチーフとなったものも多く、フェアを手掛けるにあたっては、ヤングアダルト世代に手渡した書籍が興味を持って接してもらえるよう、興味のある世界からもっと視野を広げることができるよう配慮されています。

書店では「本を売ること」、図書館では「本を貸し出すこと」と、本に対する行為は異なるものの、どちらも人と本を結びつける仕事であるということとは同じです。特に、難しそうな本やその人にとって興味のない本を手にとってもらうには、さまざまな知恵を絞ることが必要となります。絵本や児童

書は子どもだけのものと思われがちですが、大人にも響くものも多く、興味を引く展示の仕方や関連した分野に絵本や児童書も置いてみるなど、大人へのアプローチから子どもの手に渡ることもあるのだと感じました。また、とにかくいろいろなジャンルの本を読むことの大切さ、本を薦めるにはその人との会話が不可欠であることを改めて強く認識しました。

ヤングアダルト世代は以前から時間に追われることも多く、図書館の利用も小学生よりもずいぶん減少する傾向にあります。また、スマートフォンの普及により、以前と比べても、さらに本から遠ざかる子どもも多くなっているのが現状です。そのような中、それぞれの本が持っている魅力をどう理解し、どう発信してくか。1冊の本が何らかの悩みの手助けや解決につながったり、子どもたちの居場所作りのきっかけになったりすることも考えられるため、これからもあきらめることなく、創意工夫して、本との出会いをコーディネートしていくことの大切さを感じた研修会でした。